



リーを開催。来場者約 1000 名中、約 800 名参加のうち約 500 名がゴール。標語を唱えながらラリーに参加する小学生から大人まで楽しめるイベントとなった。

②『紙削減プロジェクト』の継続実施・強化
インターネットを利用した即時結果配信システムの充実進化により、更なる紙による情報配信の最小化と削減。大会会場でのウォーターサーバーの設置とマイボトル推進。

③競技会等における環境活動
監督者会議でのレクチャー、各大会終了時にバナーとともに役員集合写真を撮影。休憩時間を利用した場内ビジョンシステムでのアピールメッセージ露出。また、ゴミの削減を前提とし、例年通りの所轄自治体ルールに則した分別と、持ち帰りを奨励、実施した。そのほか、月刊機関紙『水泳』へのポスターページ掲載。

4. 全体的な成果と今後の課題

スタンプラリーは水泳 4 団体で活動する初年度、初めてのチャレンジとして「水泳の日」＝全国規模で多くの愛好者が参加したイベントであったが、来年度に向けて来場を予想される水泳ファン層へ直接アピールする参加イベント企画を更に発展させたい。2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向け、直接「水」を利用する種目である事から、より積極的に持続可能で身近な事から積み上げ、同時に将来のトップスイマーたちにもアピールしていきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 齋藤由紀

スポーツ環境委員会が連盟内に発足して 11 年を機に、『水泳の日』内での新イベントを企画したが、基本的活動内容とその理念は、小さなことの積み重ねで日常の延長上にあるという連盟の基本スタンスがかなり浸透したことを受け、初めての一般観客参加型企画として成功、環境活動を膨らませ持続可能な活動の輪を、特に若年層を含めた水泳愛好者にも広げる事を目指すものとなった。また今後、より積極的にトップ選手にも協力を仰ぎ、発信力のあるプログラムも企画・具体化したい。

（公財）日本サッカー協会

1. 実施概要

JFA の「理念」、および「国連グローバル・コンパクト」における環境 3 原則（2009 年 7 月に署名）、そして、環境省「チャレンジ 25 キャンペーン」（2010 年 1 月に登録）に基づき活動を継続。

2. 平成 27 年度事業活動

- 主催／後援競技会等におけるゴミ分別や公共交通機関利用の啓発
- JFA グリーンプロジェクトの推進
- 旧環境プロジェクトを通じた各種啓発活動の推進
- アジアサッカー連盟の社会貢献活動における国内活動の推進
- オフィス（JFA ハウス）における環境への配慮（クールビズの実施等）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

① JFA 事務局内での代表的な活動

継続してペーパーレスを推進、理事会、常務理事会、事務局内管理職会議における削減枚数は A サイズにて約 8 万枚に留まった。CO2 削減量としては、109kg 程である。その他、指導者講習会、登録業務関連説明会、事務局職員会議など、ペーパーレス文化は定着しつつあるが、一方、全体の活動量が増加傾向であり、総使用枚数は 285 万枚から 315 万枚へと増量している。

② JFA グリーンプロジェクト

引き続き、都道府県協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗の提供等を実施。

③その他社会貢献、環境活動に関する活動

JFA 組織改革活動の一環として、2016 年度から社会貢献活動委員会として専門組織を再編することとなった。また、アジアサッカー連盟の社会貢献活動（栄養改善キャンペーン）に協力、一部の活動では直接子どもたちに食料廃棄や食べ残しの問題を啓発し、環境負荷削減につながる講義も実施した。

④地域／J リーグ

大宮アルディージャ	ホームゲームやイベント開催時にクラブオリジナルのゴミ袋を使用。このゴミ袋は、焼却時に発生する CO2 を従来の一般的なゴミ袋より約 60%削減する地球に優しいもの。
ヴィッセル神戸	毎年 6 月下旬の海開きの間近に「須磨海岸クリーン作戦」を実施。市民ボランティアに加え、モーヴィやサポーターも参加。
ヴァンフォーレ甲府	9 月 19 日開催のホームゲームでは、グリーン電力購入によるカーボンオフセットとソーラーパネルで電力を供給する太陽光発電ステージを実施。
横浜 FC	基本方針に即し、清掃活動等に加え、手作り石鹸教室や古本回収など独自活動も推進している。また、それぞれ、太陽油脂㈱、武松商事㈱といった企業パートナーを迎え、サステナブルな活動としている。
レノファ山口	11 月 14 日のホーム最終ゲームでは、宇部高校 SGH コース 2 年生の提案を受け、ゴミの分別等 3R ステーションを設置、調査や啓発活動を実施。スタッフに加え、塚本泰史クラブアンバサダーも参加（310 名）。
ギラヴァンツ北九州	6 月と 10 月に「曾根干潟クリーン作戦」を実施。越冬のため飛来するズグロカモメ（絶滅危惧Ⅱ類）やカブトガニなどの多種多様な生物が生息する貴重な自然保護にギランも協力。
栃木 SC	以前にご紹介した「足尾緑化事業」に加え、引き続き、開幕前の恒例行事としてのグリーンスタジアム周辺清掃活動、ホームゲーム清掃活動を継続。

4. 全体的な成果と今後の課題

● JFA

継続してペーパーレス化を推進しているが、事業数の増加に対応が追いついていない課題もみられる。各種競技会等での活動はごみ分別、持ち帰り等、最低限の活動にとどまる。

● J リーグ

各クラブの取組が継続的に続いている。一部クラブについては活動定着に合わせ、参加者の増加等取組が根付いていることが成果として出ている。

